

平成 29 年 8 月 17 日

大学評価・IR 担当者集会 2017 全体会

大学評価コンソーシアム

1. 全体会のねらい

大学評価コンソーシアムでは、参加者が一堂に会し、評価担当者や IR 担当者を取り巻く環境や日常業務において直面する課題とその解決策等を議論する場として、全体会を実施してきました。これまで、「評価を評価で終わらせない」など、大学評価を中核において実施してきましたが、昨今の質保証への要請の高まりや IR の急激な展開に伴い、IR 担当者をはじめとする多くの大学関係者に大学評価コンソーシアム会員として登録いただき、積極的にご参加いただいております。こうした実態を踏まえ、今回は従来の「大学評価担当者集会」を「大学評価・IR 担当者集会」に改めて開催する運びとなりました。

この記念すべき節目の全体会のテーマは「評価と IR の結節点としてのファクトブック・データ集の効用を考える」を挙げさせていただきました。その所以は、大学評価も IR も、視点の相違はあるにせよ、目的に照らして大学の現状を詳らかにすることで継続的な改善へと役立てるための支援活動という点では共通している点にあります。また、評価担当者は評価書作成、IR 担当者は大学の現状把握や改善計画の立案等を支援する際に各種データや情報を必要としますが、双方が連携し、これらの業務を効率的かつ効果的に推進することが期待されています。そのため、今回の全体会においては、ファクトブック・データ集とは何か、それらを継続的に作成していくためには何が必要か、といったことについて話題提供を行うとともに、演習を通じて実践いただくことで、ご参加者いただく皆様のファクトブック・データ集に対する理解促進を図り、日常の業務において実践いただく際の一助となることを狙っております。

2. 日時・会場

平成 29 年 8 月 24 日（木）13:30-17:25

立命館大学 大阪いばらきキャンパス A 棟中ウイング 1 階 AC130

※2階は資格試験会場となっておりますので立ち入りはご遠慮ください。

3. 持参いただくもの

- ・ 【必須】事前にお配りした全体会説明資料 1 点（電子媒体、印刷した紙媒体のいずれも可）
- ・ 【必須】事前にお配りした話題提供資料 3 点（電子媒体、印刷した紙媒体のいずれも可）
- ・ 【任意】事前にお配りした演習 1 及び演習 2 の作業シート 3 点（会場で当日配布します）
- ・ 【任意】自大学のファクトブック・データ集など

4. タイムテーブル

13:30-13:45 趣旨説明

- ・ 大学評価・IR 担当者集会 2017 及び全体会の趣旨、当日の進行等を説明します。

13:45-14:15 話題提供1 「ファクトブック・データ集とは? ～解説と実践事例の紹介～」

浅野茂 (山形大学 学術研究院 (企画評価・IR 担当))

概要: 多くの大学において、評価や IR 業務に必要なデータの収集が困難であり、収集したデータの分析や活用に十分には至っていない、という現状がある。

本パートでは、ファクトブック・データ集を突破口のひとつとして位置づけ、大学概要との相違点、さらには作成過程において評価及び IR 部門が連携する必要性と効用などについて解説する。加えて、大学評価コンソーシアム幹事の所属機関において実践している事例を中心に紹介し、ファクトブック・データ集の構成や収録項目などについて具体例を提示する。

14:15-15:30 演習1

- ・ 事前配布の作業様式及び当日、会場で配布する付箋紙を用いて、以下の背景と課題に沿って個人ワーク及びグループワークを行っていただきます。

背景	評価大学では、学内に様々なデータが存在しており、各種委員会の根拠資料、評価報告書におけるエビデンス、計画の進捗管理における数値目標や指標等、徐々にではあるが学内の各種業務においてデータが活用されつつある。しかしながら、大学全体としてまとめた「公式データ集」のようなものはなく、各部署からその都度提出されるデータは毎回数値が異なっている場合もあることが多い。
課題	学長から「 <u>次年度、本学の新たな将来構想を公表したい。その検討をするため、学内に散在しているデータを使って、本学の課題や特徴を示すもの(ファクトブック・データ集)を作ってくれ</u> 」という指示がありました。 さて、それを作成する担当者となったあなたはどのようにしますか?

(15:30-15:45 休憩)

15:45-16:15 話題提供2 「データカタログによるデータの所在把握と定義の統一

～データ収集に対する評価担当者と IR 担当者の違いとは～」

大野賢一 (鳥取大学 大学評価室)

概要: データ収集は目的を持って行われるべきであり、学内に散在するデータを闇雲に集めれば良いというものではない。データの収集目的や活用方法が明確であれば、対象となるデータや保有している部署が特定され、収集方法や管理方法も決定できる。その結果、評価や IR の部署だけでなくデータ保有部署においても業務の効率化が図れる。

本パートでは、これらを実現する方法として「データカタログ」について説明するとともに、収集するデータに対する評価担当者と IR 担当者の考え方の違いを示し、機関別認証評価の自己評価書の作成プロセスを例に各担当者の役割分担について提案する。

16:15-16:55 演習 2

- ・ 演習 1 の議論の結果及び成果物を題材に、データカタログの作成を実践する個人ワークとグループワークを行っていただきます。

16:55-17:15 話題提供 3 「データマネジメントの必要性と実践」

藤原宏司（山形大学 学術研究院（IR・データ分析担当））

概要：学内外のデータを「収集」しても、それをそのまま有効活用できるとは限らない。その所以は、学内であれば部署毎にファイルのフォーマットや定義が異なる場合や、担当者の交代に伴いデータ項目が変更されること等の要因が考えられる。また、学外であれば調査票形式でのデータ公開がほとんどで、しかもデータ形式が一様でないケースも見られる。ファクトブック・データ集を継続的に作成しようとする、データを適切に整理・加工して管理する必要がある、その際、データマネジメントの重要性が浮上してくる。

本パートでは、公開データ（学校基本調査、科研費データ等）を例に、データを入手したあと、それらをどう加工・分析・可視化して、評価書作成や IR の分析業務（ベンチマーク）の活用につなげたか、その事例を紹介する。

17:15-17:25 総合討論

- ・ 全体を通した総括を行います。

5. お願い

全体会における成果は、原則的に大学評価コンソーシアムの web サイト等で公開させていただきます。また、全体会における質疑応答や総合討論でのご発言内容や撮影させていただいた写真等も公開対象とさせていただきますので、予めご承知おきください。さらに、大学評価・IR 担当者集会全体を通して、可能な限り、内容や成果の公開等を行いますので、よろしくお願いいたします。

なお、全体会において有意義な議論を行うため、以下に示す論文等を事前にご一読いただくことをお勧めします。

■情報誌「大学評価と IR」

- ◆ 土橋慶章，浅野茂（2015）「評価・IR 業務で収集した情報の効果的活用に係る一考察」，情報誌『大学評価と IR』，第 1 号，5-14.
- ◆ 寫田敏行（2015）「ファクトブック作成に向けた大学概要の活用について」，情報誌『大学評価と IR』，第 1 号，31-38.
- ◆ 関隆宏，今井博英，小田美奈子（2016）「新潟大学ファクトブック 2015」の作成について」，情報誌『大学評価と IR』，第 5 号，44-52.
- ◆ 山本幸一（2016）「設立初期の IR オフィスにおける意思決定支援の効果的運用に係る検討～明治大学におけるファクトブックの作成を通じて～」，情報誌『大学評価と IR』，第 6 号，12-20.

6. スタッフ

○浅野茂（山形大）、大野賢一（鳥取大）、小林裕美（日文研）、小湊卓夫（九州大）、佐藤仁（福岡大）、鳶田敏行（茨城大）、末次剛健志（佐賀大）、関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）、藤井都百（九州大）、藤原宏司（山形大）、藤原将人（立命館大）、山本幸一（明治大）

全体会の問い合わせ先

山形大学 企画部 浅野 茂

asano@cc.yamagata-u.ac.jp 電話：023-628-4189